

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570800203
法人名	医療法人 暁星会
事業所名	グループホーム 並木
所在地	宮崎県西都市大字下三財8124-8 (電 話) 0983-44-6229

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価機構
所在地	宮崎県宮崎市和知川原町
訪問調査日	平成19年7月3日

【情報提供票より】(19年 6月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	83 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三財病院・相澤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園の静かな所に、母体法人の老人保健施設、訪問看護ステーション、訪問介護、在宅介護支援センター、訪問入浴介護に併設されている。法人全体で研修会や勉強会が開催され積極的に参加している。また、併設の老人保健施設で夏祭りや慰問があるときは、参加して地域の方と交流をおこなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を具体化し明示していなかったが、ホーム独自の理念を全職員で検討し明示した。また、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の情報提供についてパンフレットを置き情報提供の取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価に取り組み、外部評価の結果について改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の中での意見や助言をホームの中で活かす取り組みをおこなっている。また、市が主催する研修会に参加して、ミーティングで内容について報告、検討してホームの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に利用料の請求と一緒に入居者さんのホームの生活、健康状況を報告している。また、面会時家族に意見や不満等聞いている。玄関に意見箱を設置して何でも言える雰囲気づくりをし、出た意見等はミーティングで話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買い物は、地域商店を利用しているが、地元の人々と交流はなかった。これから、近くの小中学校の行事に参加したり、訪問を受けたり交流をおこない、また、パンフレット等を地域に配布し、グループホームの理解を深めてもらう努力をしてほしい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を全職員で検討、作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、毎月1回のミーティングやその都度何かあった時に理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物で地域商店を利用しているが、地元の人々と交流は実現されていない。	○	地元の行事や近くの小学校、中学校の行事に参加したり、訪問を受けたり交流をおこなってほしい。また、パンフレット等を地域に配布してグループホームの理解を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、外部評価の結果について改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。その中の意見や助言をホームの中で活かす取り組みをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する研修会に参加して、ミーティングで内容について報告、検討してホームの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に利用料の請求と一緒に入居者さんのホームの生活、健康状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時、家族に意見、不満等聞いている。また、玄関に意見箱を設置して何でも言ってもらえる雰囲気づくりをおこなっている。また、出された意見等はミーティングで話し合い反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の方針による異動があり、老人保健施設などから介護に経験のある新しい職員である。業務に慣れるまでホーム職員が対応し、また、管理者も新しい職員をカバーしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や勉強会が計画され参加している。	○	事業所内で研修会や勉強会を計画的に開催してほしい。また、研修に参加した職員は参加できなかった職員のために研修報告書等で伝達してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や介護支援専門員連絡会などに参加し情報交換や研修会で学んだ事をホームの質の向上のために取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族にホームの説明をして入居して頂いている。	○	本人、家族に日中ホームで昼食等食べていただいたり、ホームの生活を何度か体験して入居に移行してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は一緒に生活していく中で、共に支え分かち合える関係づくりに努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などフェイスシートに記録されているが、その人の思いや暮らし方などの情報が不十分である。	○	生まれてから在宅で生活されていた状況や家族からの情報の把握に努めてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用して介護計画書を作成している。	○	過去の生活状況を把握して、家族、職員と話し合いその人に合った介護計画書を作成してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直しを行なっているが、本人、家族の要望等の記録、目標、サービス内容、評価(モニタリング)の記録が十分でない。	○	家族、本人の要望を取り入れ、短期目標又はサービス内容の評価の記録に基づき見直しを行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は医療連携体制加算、短期利用共同生活介護の指定を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関が定期的に又緊急時に訪問して適切な医療が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族に意向を聞いている。又状態の変化した時点で確認している。	○	終末期になると本人、家族の希望により協力病院に入院になっている。今後、希望によっては終末期ケアについて検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の研修会に参加して、ミーティングで説明してプライバシーの保護の徹底をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物は3日に1回おこなっている。		一人ひとりの状況を把握して、ホームの限定された状況の中でその人に合った取り組みをおこなってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、野菜の皮むきや盛付け、味見などおこなってもらっている。食事は、職員も介助しながら同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日夕方に行い、入居者は週3回入っている。浴槽に入らずシャワー浴が多い。	○	入浴は、希望の時間に実施し浴槽にゆっくり浸かり入浴を楽しめる雰囲気づくりをおこなってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割を与えて行なわれている。		本人や家族から在宅の生活状況を把握しその人の合った役割、楽しみごとの支援を続けてほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物は3日に1回、散歩は、ホームの敷地内で行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関等に鍵はかけられていない。ドアに鈴を付けたリ、入居者の行動に気をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で防災訓練を年2回実施している。		年2回の防災訓練に地元消防団や地域住民に参加協力を運営推進会議で働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量を提供して残食量チェックや水分補給をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、音楽が流れてゆっくり過ごせる雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にラジオ、ダンス、歌手のポスターなどたくさん持ち込まれている入居者の方もいる。		